

# 協会だより

小笠教育研究協会事務局  
第2号  
令和4年6月21日



## 令和4年度小笠教育研究協会 各研究部活動方針・一斉研究報告会一次案等

一斉研究報告会は、「各専門領域の研究を深めること」をねらいとしています。そのため、今年度から授業公開と事後研という形でなく、実践発表や実技研修、講習会などの形でもよいとして行うこととなりました。いまだに、新型コロナウイルスは収束しませんが、各研究部ごと感染症対策をしつつも、より多くの方が参加できる方法で一斉研究報告会を行います。内容が部ごとに異なりますのでご確認ください。公開授業を行う場合、基準日は11月9日(水)の午後とし、3密に配慮しつつ、規模を縮小または持ち方を工夫した上で実施いたします。詳細につきましては後日お知らせいたします。

お便りの終わりに、今年度の教育講演会について記させていただきます。

研究部名とテーマ	活動方針や柱	一斉研究報告会の一次案等
<b>国語教育</b>  豊かな言葉で確かに伝え合う国語科教育 ～指導と評価の一体化を通して～	<ul style="list-style-type: none"><li>指導と評価について「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価するのか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業公開 授業者：山本高裕 教諭 (菊川西中)</li></ul>
<b>社会科教育</b>  社会的事象に主体的に向き合い、よりよい社会のあり方を追究し創り上げていこうとする子どもの育成 [小] 社会的事象を徹底的に探究し、自らと社会とのつながりを様々な見方からとらえ、よりよい社会のあり方を考えることができる力を育てる [中] 広い視野に立って社会的事象を探究し、社会の一員としてよりよい社会の実現に向け、行動することができる力を育てる	<ul style="list-style-type: none"><li>『新学習指導要領を視野に入れた小笠の社会科の授業づくり』(小学校)<ul style="list-style-type: none"><li>「パフォーマンス評価」を取り入れた授業改善(中学校)</li><li>指導案の作成</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業公開 授業者：神谷耕平 教諭 (内田小)</li></ul>
<b>数学教育</b>  未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』を育む授業づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>『思考力・判断力・表現力』を育む授業とはどんな授業なのか、委員の授業研修を通して追究し、会員の授業力向上に資する。</li><li>○算数・数学科で思考力・判断力・表現力を具体的に表した<ol style="list-style-type: none"><li>きまりを見いだす力</li><li>理由を筋道立てて説明する力</li><li>別の(よりよい)方法を考えようとする態度</li><li>統合的・発展的に考えようとする態度</li><li>数学的に表現された文章・式・グラフ等を読み取り評価する力</li></ol>の5つの資質・能力の育成に重点を置いた授業展開を追う。</li><li>○研究成果を、一斉研修報告会、静教研夏季大会を通して会員に広める。</li></ul>	小中それぞれで研究授業を行い、その授業について協議を行う。一斉研の当日に授業公開するか、事前に研究委員のみが参観して授業を行い、ビデオ編集した動画を見てオンラインで行うかは、コロナ状況によって検討する。また、外部講師については本年度は無しとする。
<b>理科教育</b>  理科における探究の過程を大切に、児童・生徒が主体的に問題解決する授業	<ul style="list-style-type: none"><li>令和4年度静教研夏季研究大会(観察・実験)分科会に向けての発表準備</li><li>令和5年度静教研夏季研究大会(物質とエネルギー)分科会に向けての実践の積み重ね</li><li>学生科学賞応募研究の取りまとめ、小笠地区審査会</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業公開 授業者：内藤一紀 教諭 (城北小)</li><li>事後研修会</li></ul>

<p><b>音楽教育</b></p> <p>音でつなごう　ときめきの心</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校9年間を見通した音楽指導の系統性についての研究を推進する。(教科書研究)</li> <li>・「新しい生活様式」のもとでの音楽授業のあり方について研究する。(授業実践の推進)</li> <li>・1年間の研究成果を「小笠の教育」にまとめる。</li> </ul>	<p>杉田純子氏(合唱指導者)を講師として招き、①歌唱領域を題材とした公開授業(中学生に歌唱指導を行う場面を設定する予定)、②教員を対象とした実技講習を行うことで、歌唱指導について学び合う機会とする。</p>
<p><b>美術教育</b></p> <p>アートの心で　響いて広がれ ～アート思考を育む　かかわる　つながる　造形教育～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人」や「もの」、「生活」や「社会」、美術や「美術文化」とかかわりを深め、主体的につながることで、造形的な見方・考え方(アートの心)を育むことができる授業。</li> <li>・「今まで学んできたこと」(既習事項)とつながり、構造化、概念化して捉え、造形的な見方・考え方(アートの心)を発揮していける造形教育。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開 授業者:稲森仁 教諭(菊川西中)</li> <li>・R5年度の小笠・榛原地区合同研究発表の開催について</li> </ul>
<p><b>保健体育教育</b></p> <p>主体的・対話的で深い学びを通して、豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う体育・保健体育授業</p>	<p>○授業を語れる教師の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、研究テーマに沿った実践を積み、小笠地区に広める。</li> <li>・思考力、判断力、表現力等を身に付けるための指導や評価の方法などの研究を行う。</li> <li>・一人一台端末を活用した学びの深め方を探っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の器械運動「マット運動」領域において推進委員が参観のもと事前に行った授業を報告する。</li> <li>・カワイ体操教室の方を講師として、実技研修会を行う。</li> </ul>
<p><b>技術・家庭科教育</b></p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業</p>	<p>(技術分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年静教研紙上発表に向けた研究推進</li> <li>・令和5年度の全国大会に向けた研究推進</li> </ul> <p>(家庭分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年小学校静教研発表に向けた共同研究</li> <li>・令和6年度の静教研発表に向けた研究推進(地区の実態把握・研究の柱や方向性を定める)</li> </ul>	<p>8/8(技術分野) 技術家庭実技研修会実施予定</p> <p>11/9(技術分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による講義</li> <li>・研究分野の資料分析</li> </ul> <p>11/9(家庭分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の公開授業の事後研修会参加及び指導助言者の講義</li> </ul>
<p><b>小学校家庭科教育</b></p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業(静岡県技術・家庭科研究部テーマ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 つけたい力を明確に押さえ、子どもが主体的に取り組むためにより効果的な学習活動を仕組む。</li> <li>2 各教材における評価のあり方を検討し、指導に生かす。</li> <li>3 年間を見通し、各題材の学びがにつながるような題材構想を考える。</li> <li>4 上記3点を研究し、令和5年度の発表(内容A)に向けて準備を進める。</li> </ol>	<p>11月9日(水)小笠南小学校を会場に報告会や授業公開を行う。「家庭生活と家族」の授業について研修する。講師は、小清水貴子先生(静岡大学 大学院 准教授)</p>
<p><b>英語教育</b></p> <p>小・中9年間を通してたくましく英語を学ぶ生徒の育成を目指した授業づくり</p>	<p>研究テーマに沿ってこれまで推進委員が積み上げてきた実践を、推進委員のリードのもとに管内各中学校での実践に広げる。推進委員会では、小笠地区の英語授業で育てたい生徒の姿を確認しながら、各班で進めている実践について意見交換を行い、来年度の一斉研究報告会での発表につなげる。そして、この研究の成果については、令和5年度静教研夏季大会で発表する。</p>	<p>令和5年度の静教研夏季大会の発表に向けて、小笠地区英語教育研究部が進めてきた一斉研究報告会の持ち方の経緯(中心授業公開→推進委員によるブース・セッション形式の発表会→一般英語教員によるブース・セッション形式の実践発表)をまとめていく。</p>
<p><b>生活科・総合的な学習</b></p> <p>気付き　かかわり　よりよく生きる</p>	<p>これまで生活科や総合的な学習の時間で培ってきた課題解決の力や探究的な学習が、「主体的・対話的で深い学び」で実現されるように、課題解決の力や探求的な学習を充実させていく。</p> <p>スタートカリキュラムに示される幼小の接続や小中の接続も重視し、「縦のつながり」で資質・能力の育成について考えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開 授業者:芥川梓 教諭(掛川中小)</li> <li>講師:山口恭正 さん(元蒲原西小校長)</li> </ul>
<p><b>特別活動</b></p> <p>高めよう自治力!　生かそう児童生徒の主体性!</p>	<p>○児童生徒の主体性を引き出しながら、学校が活気づき、子どもたちが生き生きと活動する実践の推進。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の主体性を生かす活動づくり</li> <li>2 特別活動の視点から考える小中連携</li> </ol> <p>○静教研発表準備および、次年度資料作成のための研究部会を各1回計2回行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属研究委員対象で、研究委員による授業公開と事後研修会の実施。</li> </ul>

<p><b>道徳教育</b></p> <p>考えを深め合うストーリーのある授業</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国・県・3市の方針を踏まえた本質的な研究を行う。</li> <li>2 部員一人一人の授業力向上を図り、研究成果を発信する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原野谷中学校を会場に授業研究を行い、人数を制限し、参加を基本とした協議を行う。</li> </ul>
<p><b>生徒指導</b></p> <p>自己肯定感を高める生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の自己肯定感を高めるための生徒指導の実践研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の「自己肯定感を高めるための生徒指導」の実践報告</li> <li>・各校での自己肯定感を高めるための生徒指導の実践を聞き、よりよい取り組みを模索する。</li> </ul>
<p><b>書写教育</b></p> <p>正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切に育てる子の育成</p>	<p>席書コンクール、書き初め等の取り組みを軸とし、日々の書写指導や作品の評価を通して、自分の課題がもてるように指導するとともに、児童生徒の学習意欲を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠地区席書コンクールの審査及び書写実技に関する研修</li> </ul>
<p><b>学校図書館</b></p> <p>知識をつなげる 学びを広げる 心をはぐくむ 学校図書館 一本に出会い、本に闘わり、本と生きる一</p>	<p>学校図書館や司書教諭の果たす役割が重視される今、司書教諭や図書館担当者としての力量を高め、本テーマに向けての活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業公開と講師招聘により、実践的な指導力を高めるための一斉研究報告会を実施する。</li> <li>2 読書感想文や読書感想画コンクールへの参加を通して、読書意欲の高揚を図る。</li> <li>3 読書センター・学習センター・情報センターとしての機能を十分発揮し、学びを支える学校図書館の充実を図る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して実践紹介を行う。公開授業と分科会、事後研修・講話、各種研修会の報告や先進校の事例を紹介する。</li> <li>・授業公開 授業者：鈴木捺通子 教諭 (大坂小)</li> </ul>
<p><b>学校保健</b></p> <p>自分の身体と主体的に向き合う子どもの育成 ～発達段階に応じた切れ目のない健康教育～</p>	<p>中学校区毎に決めた健康課題に沿った実践を行い、自分の身体と主体的に向き合う子どもの育成を目指す。また、他の中学校区の実践を知ることによりよりよい研修方法を学び、健康教育推進者としての資質向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区の実践に関する内容や静教研発表後の取組の紹介について</li> </ul>
<p><b>事務</b></p> <p>子どもの豊かな育ちを支援する学校事務</p>	<p>人材育成に向けた研究を通し、スクールマネージャーとしての役割を果たす学校事務職員の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン分散会会場形式</li> <li>・グループワーク</li> <li>・ランドデザイン策定委員会報告</li> </ul>
<p><b>特別支援教育</b></p> <p>一人一人のよさや可能性を伸ばし、豊かに生きる力をはぐくむ特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の視点から、学校間・教師間の連携を密にし、組織の活性化を図る。</li> <li>・特別支援教育の推進者の世代交代を見据え、若手職員の資質向上に努める。</li> <li>・GIGAスクール構想の実現を踏まえ、特別支援教育に関わるICT活用のあり方を研修する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育でのICT活用のあり方</li> </ul>
<p><b>情報教育</b></p> <p>一人一台端末を活用した「個別最適な学び」と「共同的な学び」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会で各校での実践を資料にまとめて持ち寄る。</li> <li>・資料を見ながら、テーマについて意見を交わし合う。</li> <li>・研究の成果や課題などを小笠の教育に載せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員が各校の実践を持ち寄り、意見交換をする。</li> </ul>
<p><b>学校給食</b></p> <p>「学校給食から広がる食育の推進」～豊かな心と健やかな体づくりを目指して～</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校給食を含む食育を学校教育全体の中で体系的・計画的・組織的に推進する方法を研究する。</li> <li>2 栄養教諭等と学級担任・給食主任・家庭科主任・養護教諭との連携力を高める。</li> <li>3 研修を通して栄養教諭等の専門性を高める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観(集会形式20人くらい)</li> <li>・事後研修</li> </ul>

## 令和4年度 教育講演会について

日時： 令和4年8月9日（火）  
会場： Zoom によるオンライン講演会  
講師： 木村泰子氏  
（大阪市立大空小学校初代校長）  
演題： 「みんなの学校」が教えてくれたこと  
日程： 接続テスト 13:50～14:05  
（予定） あいさつ・講師紹介 14:05～  
講演 14:10～15:40（90分）  
お礼の言葉・閉会 15:40～

### — 木村氏の紹介 —

「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちの協力で設立された大阪市立大空小学校の初代校長。2015年春、45年間の教職歴をもって退職。現在は、映画「みんなの学校」の上映会と共に、全国各地で講演活動を行う。

子どもを多方面から見つめ、全教職員のチーム力で「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ことに情熱を注ぐ。学校を外に開き、教職員と子どもと共に地域の協力を経て学校運営にあたる他、特別な支援を必要とされる子どもも同じ教室でともに学び、育ち合う教育を具現化した。

## 令和4年度静岡県教育研究会評議員教育研究会 報告 R4.6.3 県会館

※小笠地区代表 協会会長澤崎淳一（堀之内小）、協会副会長鷲山智久（西郷小）は欠席により資料伝達。

### 1. 令和4年度静教研基本テーマ 『ときめき かかわり 未来へつなぐ』

3大事業 を柱に、研修の充実・発展に努める。

- ① 研究大会・・・本年度 8/3（水）・4（木）  
※実施形態は部ごとの判断による。HP で確認する。
- ② 調査研究活動・・・各種コンクール、国語・算数定着度調査、発表会等を従来通り実施する。
- ③ 研究成果刊行・・・静教研だより（6・9・1月）、研究冊子（12月）、各部報



### 2. 静教研のホームページ

昨年新しくなった。新しいHP では、以下のことが可能になっている。

- 1 研究大会要項の掲載・・・従来の紙媒体による大会要項の全校配布は不要になる。「会員登録」が必要。
- 2 研究大会への参加申し込み・・・HP から参加申し込みができる。  
（従来のようにそれぞれ担当地区の代表にFAX しなくてよい。）
- 3 研究大会の参加者名簿の作成・・・参加申し込みのデータを使って、参加者名簿が作成できる。名簿作成のミスがなくなり、人数の把握も瞬時にでき、準備がスムーズになる。
- 4 研究大会の参加者アンケートの記述と集約・・・大会参加者のアンケート（感想）記述がHP でできる。
- 5 研究大会の資料掲載・・・大会参加者はHP から必要な資料をダウンロードし、事前に内容を理解して大会に臨めるようになる。これまで行っていた資料印刷や当日配布も不要となる。オンデマンドによる大会開催（HP への録画の掲載）が可能になる。
- 6 部員への案内やお知らせの掲載、研究部役員間の連絡・・・研究部員への会合通知や会議資料などもHP で行えるようになる。

## 夏季研究大会の案内閲覧、参加申し込みは、

## 静教研ホームページから（要会員登録）。

静岡県教育研究会 で検索！ 申込み期間 6/20（月）～7/8（金）